

あいの里地区とその周辺（札幌市北区）

岩崎 孝博

あいの里地区及びその周辺は茨戸川、石狩川、拓北地区の草原などに囲まれています。

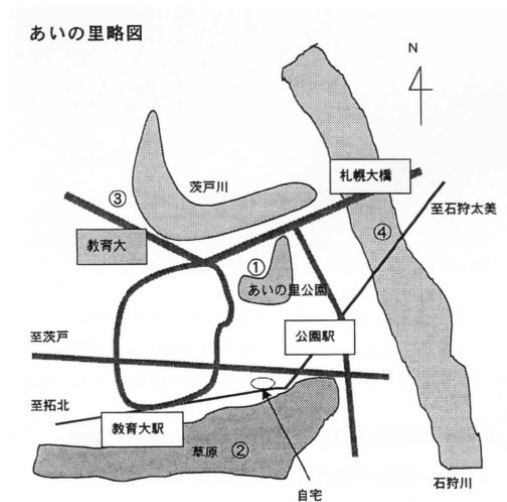
一昨年（2002年）の1月に望遠鏡を購入して以来、自宅近辺で単独鳥見を始めました。

①自宅から車で数分のところにあるあいの里公園：もともと足繁く通うあいの里公園は昭和60、62年に造成されました。面積12.2ha、周囲1km、中央にトンネウス沼を囲んだ公園です。トンネウス沼は雨水時貯留機能を持ち、茨戸川と水門でつながる旧河川で水深1m、ひょうたん型で水草が豊富なので小魚も多くいますし、希少なイトトンボが生息しハスの花も咲きました。あいの里公園が造成されてから16～17年たっていますが、種々の松やヤチダモ、サクラ、シラカバ等の広葉樹やツツジ、レンギョウの低木など豊かな樹木が育ち、また湿地帯にはミズバショウも咲いています。雪解けとともに春の色彩が豊かになる頃、前後してアオサギやカモ類、まれにセイタカシギ、バン、カワセミなどの水域の鳥、アオジ、カワラヒワ、ウグイス、アリスィ、アカハラ、コヨシキリ、モズ、カッコウ、カラ類、まれにキレンジャクなどの陸域の鳥が飛来します。

②自宅の周辺、町内の外回りを走っているJR線路の南東の雑草地や雑木林：ここでは、アカハラ、カワラヒワ、ハクセキレイ、オオジシギ、ウグイス、アリスィ、ヒバリ、オオジュリン、コヨシキリ、カッコウ、キジバト、アオジ、モズ、エゾセンニュウ、ノビタキ、ノゴマなど、通勤途上でも毎日のように見たり聴いたりできます。茨戸福移通り陸橋下でマキノセンニュウの鳴き声や近くの空き地でシマセンニュウの声を聴いたり、昨年気がつかなかった野鳥に会い大いに楽しんでます。

③あいの里公園から北西にある山口大師堂に隣接する茨戸川および雑草地：ここもお気に入りの場所で、コヨシキリ、ノビタキ、オオジュリンなど草原の鳥をじっくり観察できる場所でもあり、その他多種の野鳥を楽しめます。

④札幌大橋近辺の石狩川流域：ここは春秋にシギ、チドリ、カモ類ほか大いに楽しめる場所



です。長期に観察することにより求愛、交尾、巣作り、抱卵、子育て、巣立ちなど様々な場面に出会い一層野鳥の生活に興味が深まりました。

草原②も宅地開発が今年から着工され、自然の減少に心配していますが、鳥たちが力強く生きてほしいと念じています。今後も継続してこの地域の野鳥を観察、見守って行きたいと思っています。